

1. 調査の目的
子どもたち一人ひとりが自らの強みを知り、学びの基盤となる言語能力や読解力、情報活用能力等を向上させ、これからの社会を生き抜く力を着実につける。
2. 調査の対象
小学校及び義務教育学校前期課程 第5学年（890人が参加） 第6学年（875人が参加）
3. 実施日
令和6年4月18日（木）

4. 調査の内容
5年生：国語、算数、理科、わくわく問題（教科横断型問題）、アンケート
6年生：理科、わくわく問題（教科横断型問題）、アンケート
5. 児童への資料提供「ウォッチシート（個人票）」の記載内容
・アンケート結果からわかる児童一人ひとりのよいところ
・各教科とわくわく問題の解答状況から見られる、児童一人ひとりのよいところ
・各教科とわくわく問題のすべての問題について、児童一人ひとりの正答状況とそれに合わせたアドバイス

教科に関する結果

R3以降大阪府との差はほぼ1問以内であるものの、差が縮まっていないことが課題

平均正答数		守口市	大阪府	R6府との差 (R5との比較)	R5府との差
5年生	国語（17問中）	11.7	12.5	-0.8 (+0.1)	-0.9
	算数（7問中）	2.2	2.6	-0.4 (-0.2)	-0.2
	理科（11問中）	6.3	6.8	-0.5 (-0.2)	-0.3
6年生	理科（11問中）	6.6	7.0	-0.4 (+0.1)	-0.5
5・6年生	わくわく問題（9問中）	5.3	5.7	-0.4 (-0.1)	-0.3

【5年生国語】

「文中の指示語（『そこ』『これ』など）の指示内容を捉える」問題は約90%の児童が正答できている。しかし、「文中の主語と述語の関係を正しく捉える」問題の正答率（66.7%）は、大阪府を大きく下回った。

【5年生算数】

「データを二つの観点から分類した表を読み取る」問題の正答率（40.8%）は大阪府とほぼ同じだったが、「棒グラフと折れ線グラフから情報を読み取る」問題の正答率（39.8%）は、大阪府を大きく下回った。

【5・6年生理科（共通した問題部分）】

「虫めがねを使った日光の集め方」を問う問題は80%を超える正答率だった一方で、「湯気が水蒸気となり空気中に含まれていく」ことを記述し、説明する問題は正答率が約40%であり、大阪府を下回った。

【わくわく問題（教科横断型問題）】

「身近な乗り物である『自転車』を題材とし、身の回りにおける問題点や見聞きした社会的な諸課題を自分ごととしてとらえ、解決に向けて何ができるかを考える問題」では、正答率が69.6%だった。自分の考えや、考えの理由を書く力が概ね定着していることがわかる。

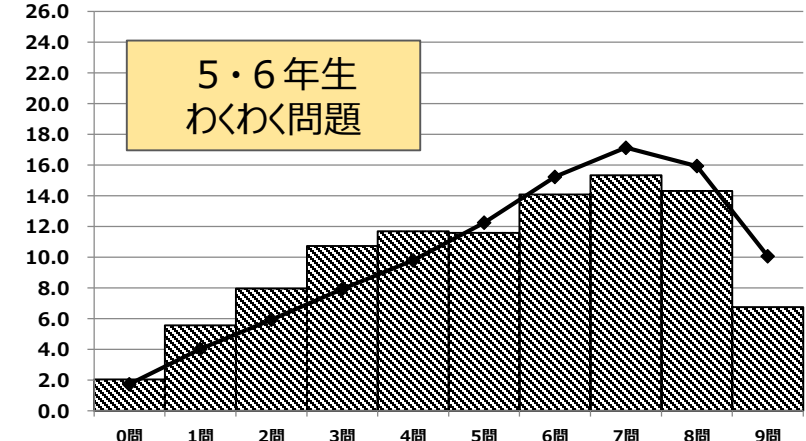
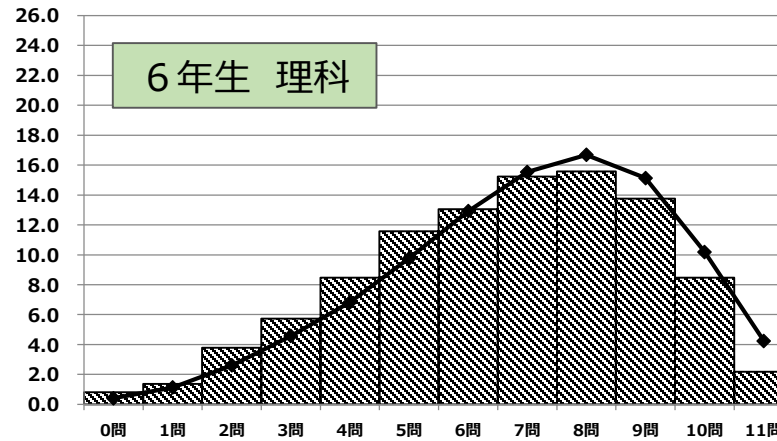
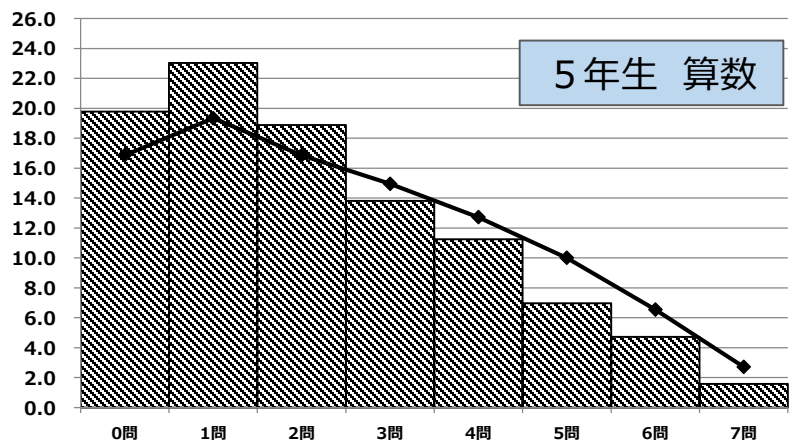
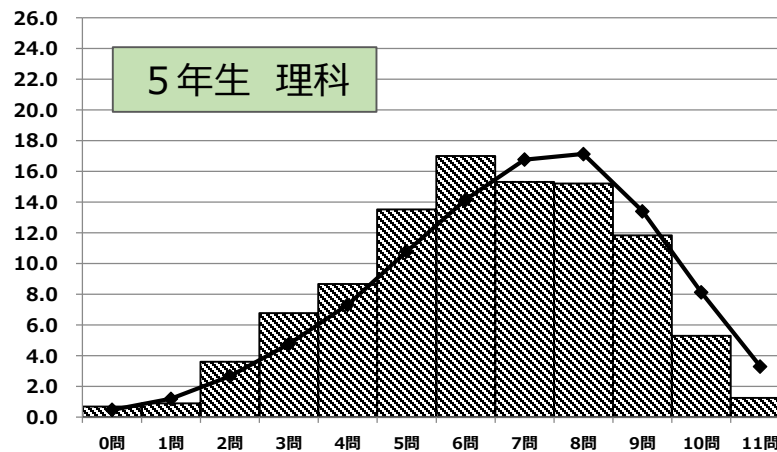
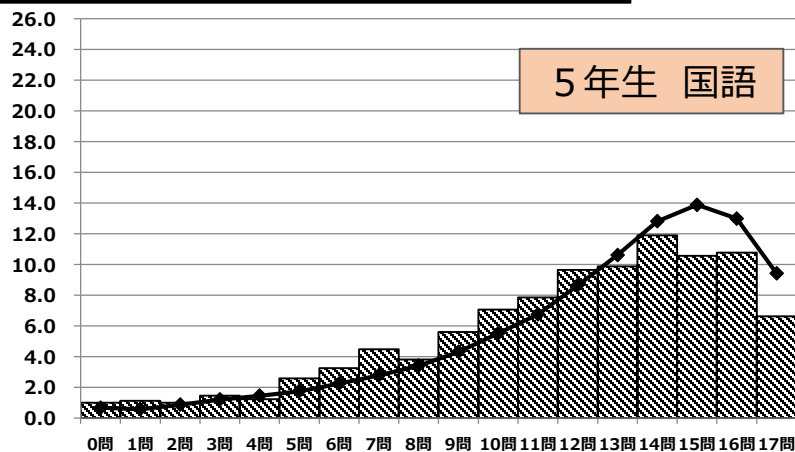
また、「『すし』を題材とし、資料から気付いた『食について考えなければならないこと』を周囲の人に知らせるためのポスターをかく問題」では、正答率が55.6%だった。資料を読み取ったうえで自分の考えを文章と絵で表現するという問題だったことから、調べ学習等の学習経験を生かす機会になったと考えられる。

一方、「ダンスの踊り方の工夫を、三つの条件を満たしながら記述する」問題では、正答率が22.2%だった。このことから、複数の情報を収集し、条件に沿って表現することに課題があると考えられる。しかし、正答には至らなかったものの、三つの条件のうち、「二つの条件のみで解答（34.0%）」「一つの条件のみで解答（30.8%）」した児童は、あわせて60%を超え、多くが難易度の高い問題に対して前向きに取り組んだことが読み取れる。

わくわく問題で問われているような、思考力・判断力・表現力等を育てるためには、授業において、児童自身が学習課題の解決に向けて複数の情報を集め、その情報を整理・分析し、文章等でまとめ・表現する活動を全教科等で、繰り返し行うような工夫が大切である。様々な場面で何度も取り組むことで、自分にとってやりやすい整理の方法を見つけたり、それまでの学習の反省を活かして表現方法を工夫したりすることにつながる。

正答数分布グラフ（横：正答数、縦：割合）

■ 守口市 ◆ 大阪府

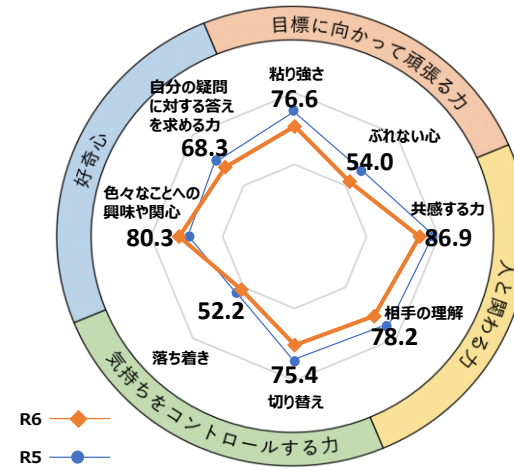


未来に向かう力と好奇心について

子どもの将来には、テスト等で測ることのできる「学力」の他に、非認知能力が大きく関わっています。大阪府では、これからの予測困難な社会を生き抜くために必要な、「①目標に向かって頑張る力」「②気持ちをコントロールする力」「③人と関わる力」の3つを「未来に向かう力」と定義しています。

「共感する力」「色々なことへの興味や関心」の項目について、80ポイントを超える肯定的回答があり、「色々なことへの興味や関心」の項目は、昨年度よりもさらに伸びが見られます。

守口市の子どもたちは、新しいことや誰もやったことのない物事にチャレンジし、人との関わり合いを大切に「前向きな心」をもっていると言えます。一人ひとりの子どもたちが、自分らしさを発揮し、さらに伸ばしていけるよう、子どもたちの挑戦を支えていきたいと思えます。



【児童アンケートから】

◆「『自分にはよいところがある』と思う」「頑張りやである」の項目で、肯定的回答が増加しています。子どもたちへの肯定的な声かけ等とおして、自分のがんばりを自覚することにつながっていると考えられます。

◆「新しいことに挑戦することは好きだ」「誰もやったことのない物事に興味がある」「どこに行っても、新しい物事や経験を探す」「わからないことや知りたいことがあったとき、本やインターネット等で調べている」の項目についても、肯定的回答が増加しています。子どもたちの探究心をさらに伸ばしていけるような教育活動が、今後も重要です。

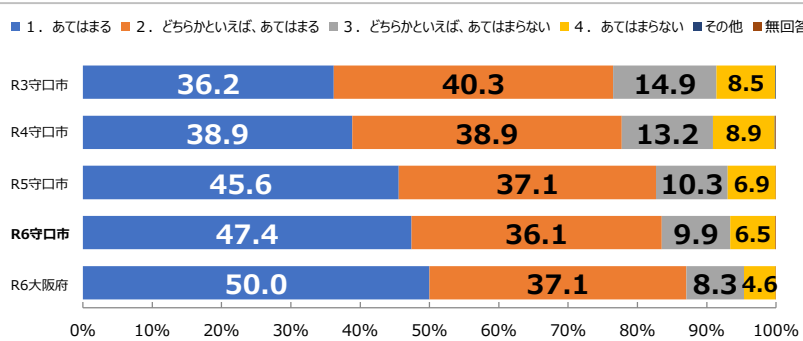
◆同一集団で比較すると、「授業で、コンピュータやタブレットを使って、必要な情報を調べる」頻度が高くなり、「先生や友だちが話していることで、大事だと思ったことをノート等」に書いている」割合も増加していることから、主体的に学習に取り組んでいることが分かります。

◆「平日の読書時間」については短くなっており、大阪府の結果を下回っています。本に触れる機会を増やせるよう、継続した取組が必要です。

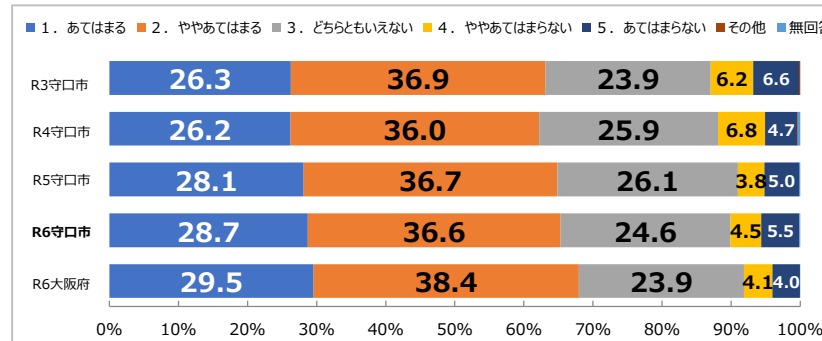
児童アンケート（5・6年生）令和3年度から令和6年度までの経年比較

〔肯定的回答の割合が増加した項目〕

「自分にはよいところがある」と思う



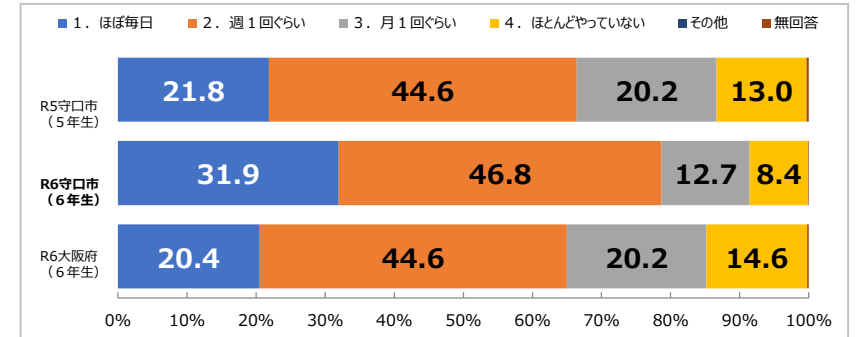
頑張りやである



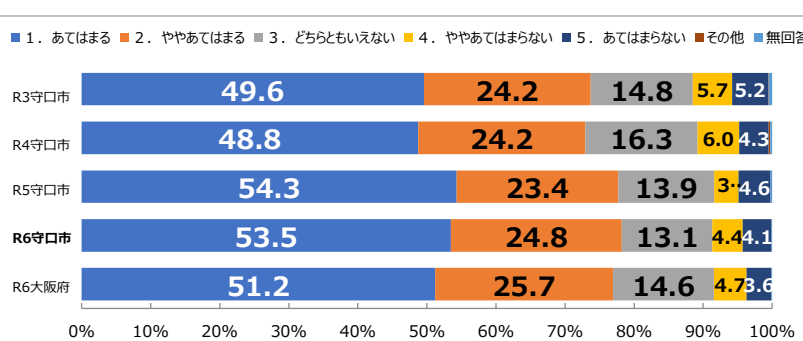
守口市の令和6年度6年生について

昨年度（5年生時）との比較から〔同一集団による比較〕

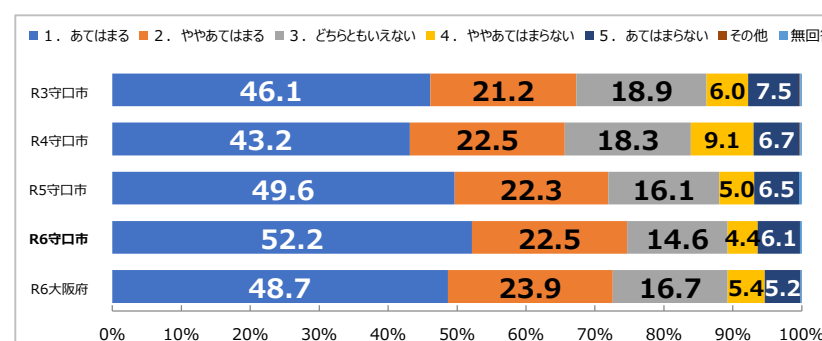
授業で、コンピュータやタブレットを使って、必要な情報を調べることはどれくらいありますか？



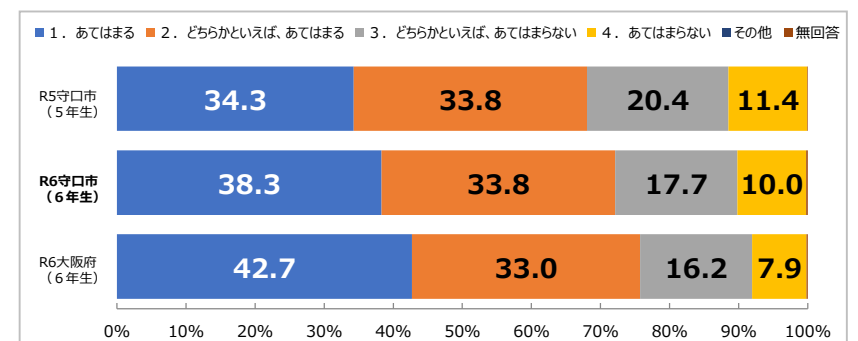
新しいことに挑戦することは好きだ



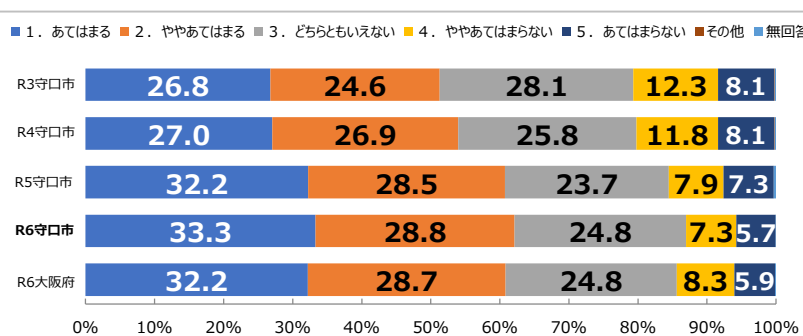
誰もやったことのない物事にとっても興味がある



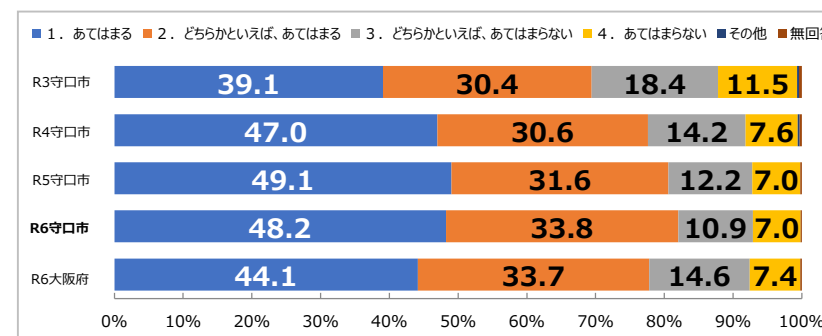
先生や友だちが話していることで、大事だと思ったことをノート等



どこに行っても、新しい物事や経験を探す



わからないことや知りたいことがあったとき、本やインターネット等で調べている



ふだん（月曜日から金曜日）1日に、およそどれぐらいの時間、本（教科書は除く）を読みますか

